

アンケート調査結果

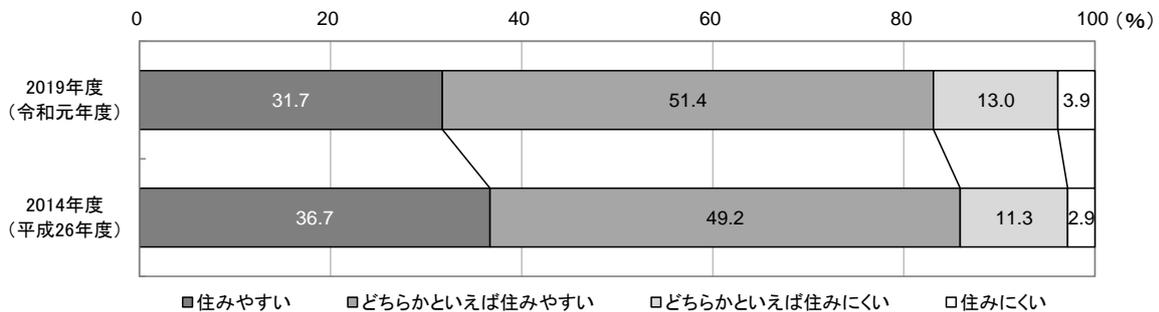
(1) 市民意向調査結果

① 調査概要

- 調査期間： 2019年（令和元年）9月2日（月）～9月30日（月）
- 調査対象： 満18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）
- 調査方法： 郵送による配布・回収
- 回収結果： 配布数3,000票 / 回収数1,277票（回収率42.6%）

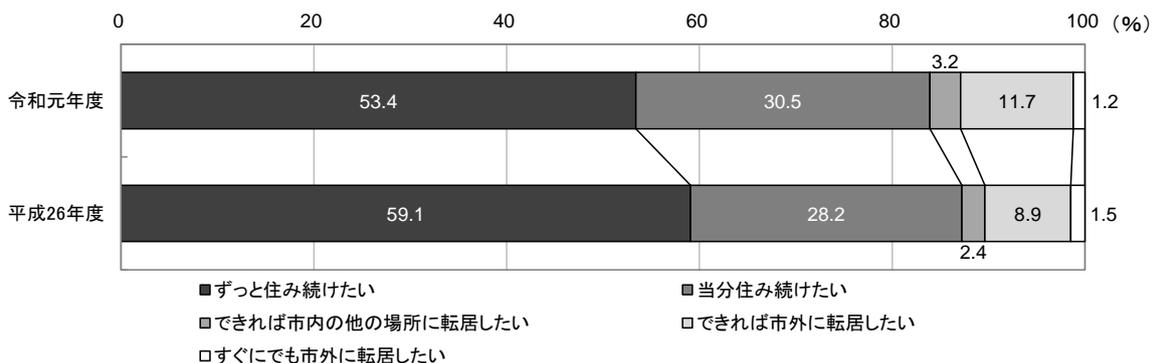
② 住みやすさ

- 結城市を「住みやすいまち」と考えている人が大半を占めています。
- 一方、2014年度（平成26年度）と比べると、「住みやすいまち」と考えている人がやや減少しています。



③ 定住意向

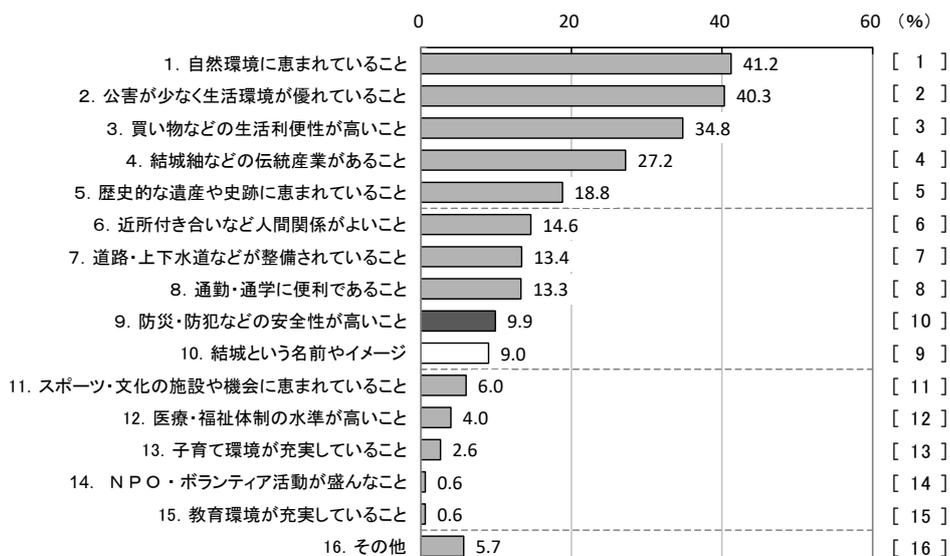
- 「結城市に住み続けたい」が大半を占めています。
- 一方、2014年度（平成26年度）と比べると、定住意向のある人がやや減少しています。





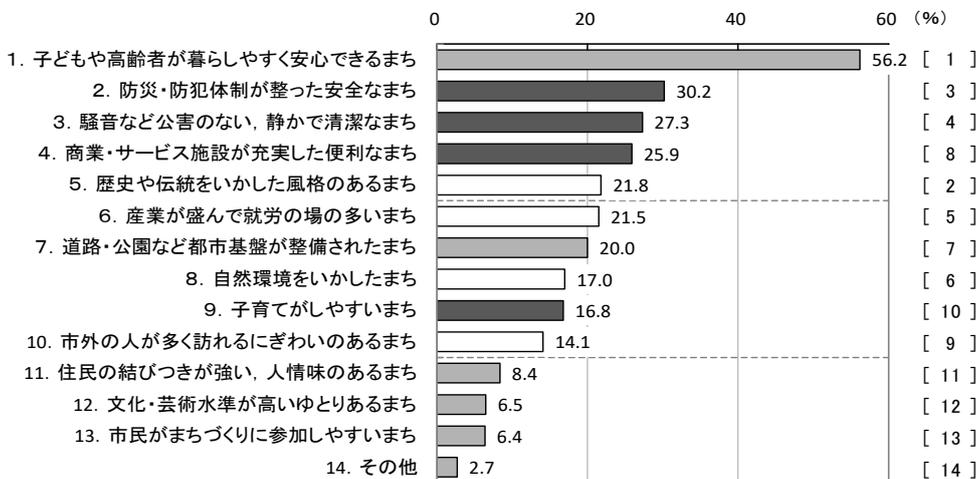
④ 結城市の長所

○結城市の長所を「自然環境」と捉える人が最も多くなっています。
 ○また、「生活環境」、「買い物などの生活利便性」などの日常の生活環境や、「結城紬などの伝統産業」、「歴史的な遺産や史跡」などの歴史・文化・伝統に一定の評価をしている人も多くなっていますが、子育て・教育環境への評価は非常に低くなっています。



⑤ 結城市の将来像

○「子どもや高齢者が暮らしやすく安心できるまち」が特に多くなっていますが、結城市の長所として「医療・福祉体制の水準」や「子育て環境」を挙げる人は少なかったことから、今後は、子育て支援・高齢者福祉を充実させることが課題になると考えられます。
 ○また、2014年度（平成26年度）から「商業・サービス施設が充実した便利なまち」が順位を上げており、市民の期待が高まっていると考えられます。

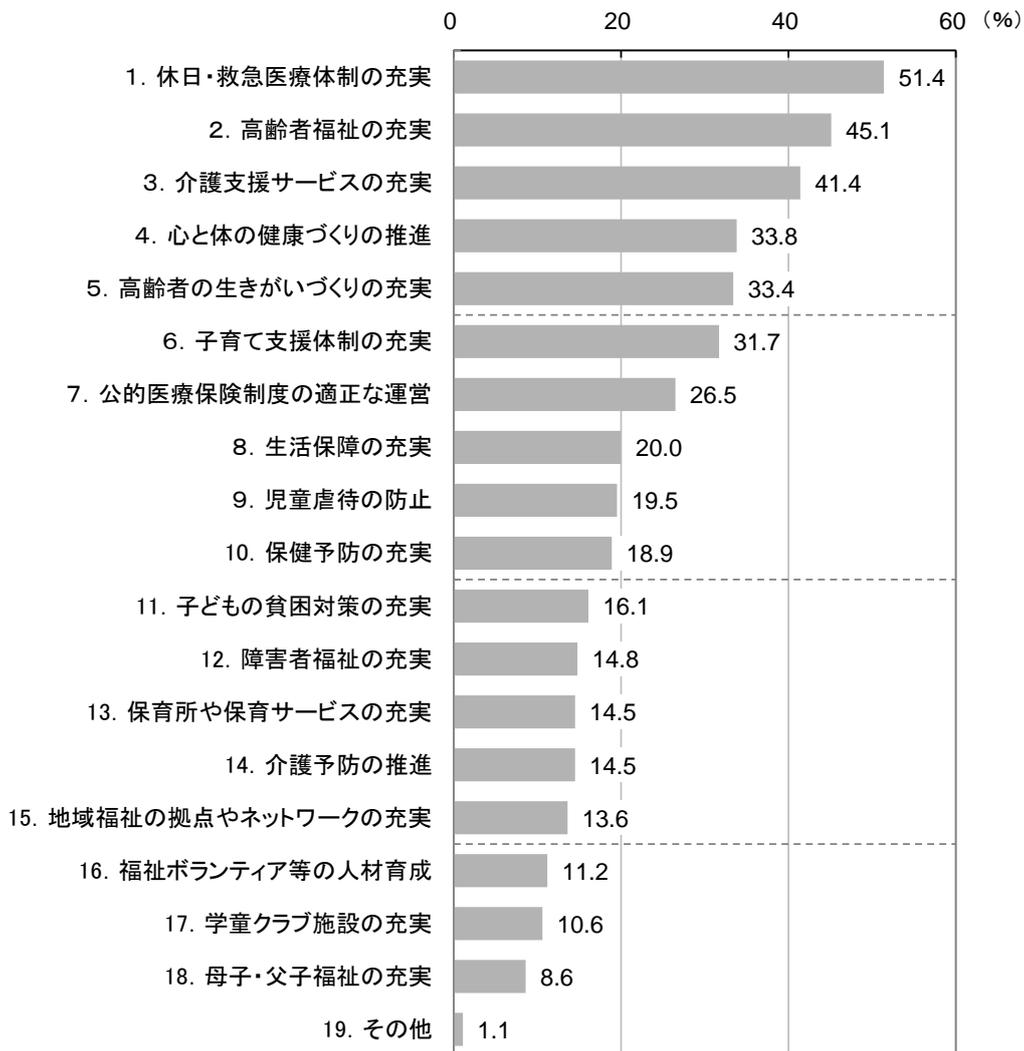


※ [] 内の数字は、「第5次結城市総合計画後期基本計画」における「市民3,000人アンケート調査結果」(2014年度(平成26年度))の順位

■ 前回より上昇 □ 前回より下降
 ■ 変化無し ■ 今回、新たに追加した項目

⑥ 保健・福祉施策についての優先事項

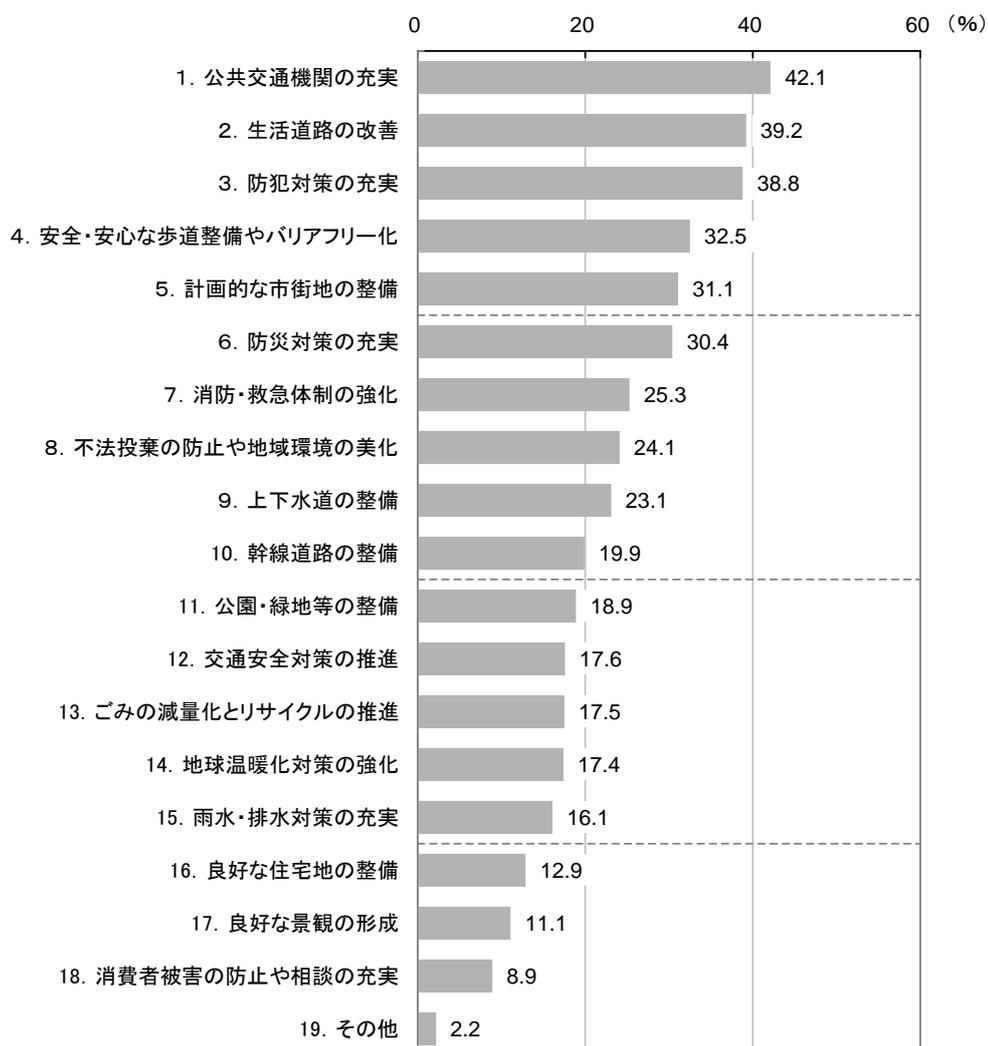
- 「休日・救急医療体制の充実」が最も多くなっています。
- また、「高齢者福祉の充実」や、「介護支援サービスの充実」、「心と体の健康づくりの推進」、「高齢者の生きがいづくりの充実」、「子育て支援体制の充実」なども上位を占めています。
- これらのことから、医療体制の充実、高齢者福祉・介護支援サービスの充実、子育て支援体制の充実とともに、医療・介護に頼らない元気な高齢者を増やすため、生涯にわたって健康に暮らせる環境の整備が課題になると考えられます。





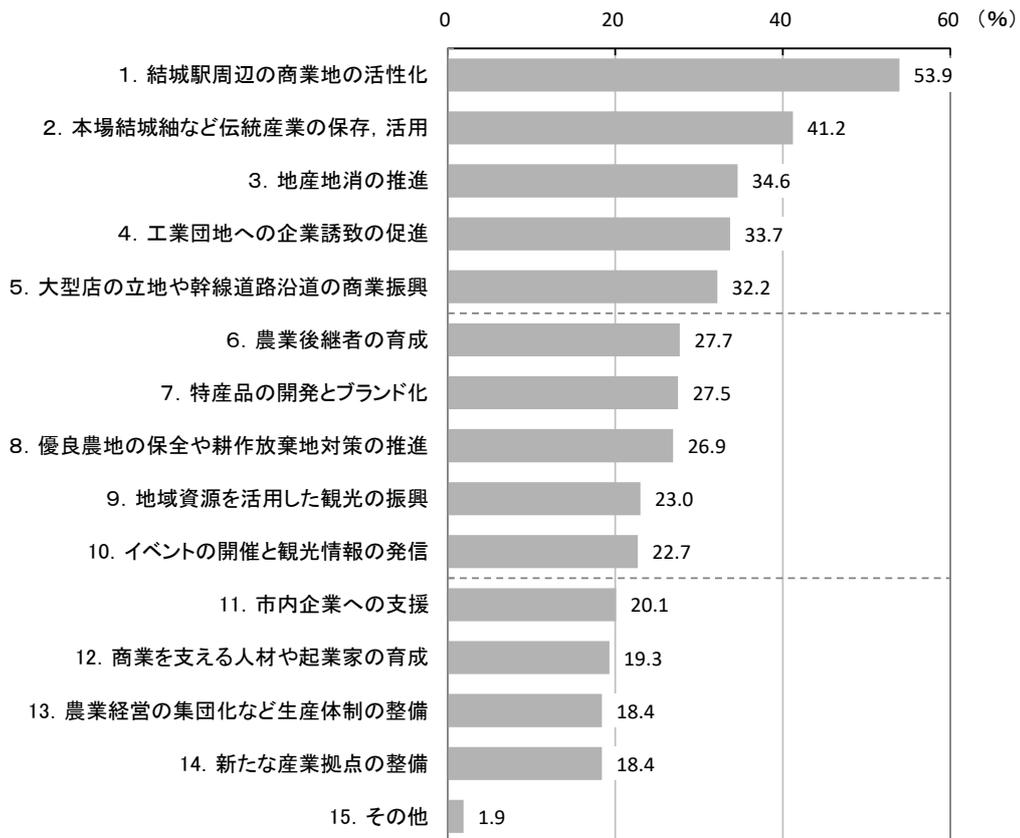
⑦ 都市・環境施策についての優先事項

- 「公共交通機関の充実」や「生活道路の改善」などが多く挙げられており、市民の足となる公共交通機関の充実や、生活に身近な道路の整備が課題になると考えられます。
- また、「防犯対策の充実」や「安全・安心な歩道整備やバリアフリー化」、「防災対策の充実」、「消防・救急体制の強化」なども多く挙げられており、誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりを推進することが求められています。



⑧ 産業振興施策についての優先事項

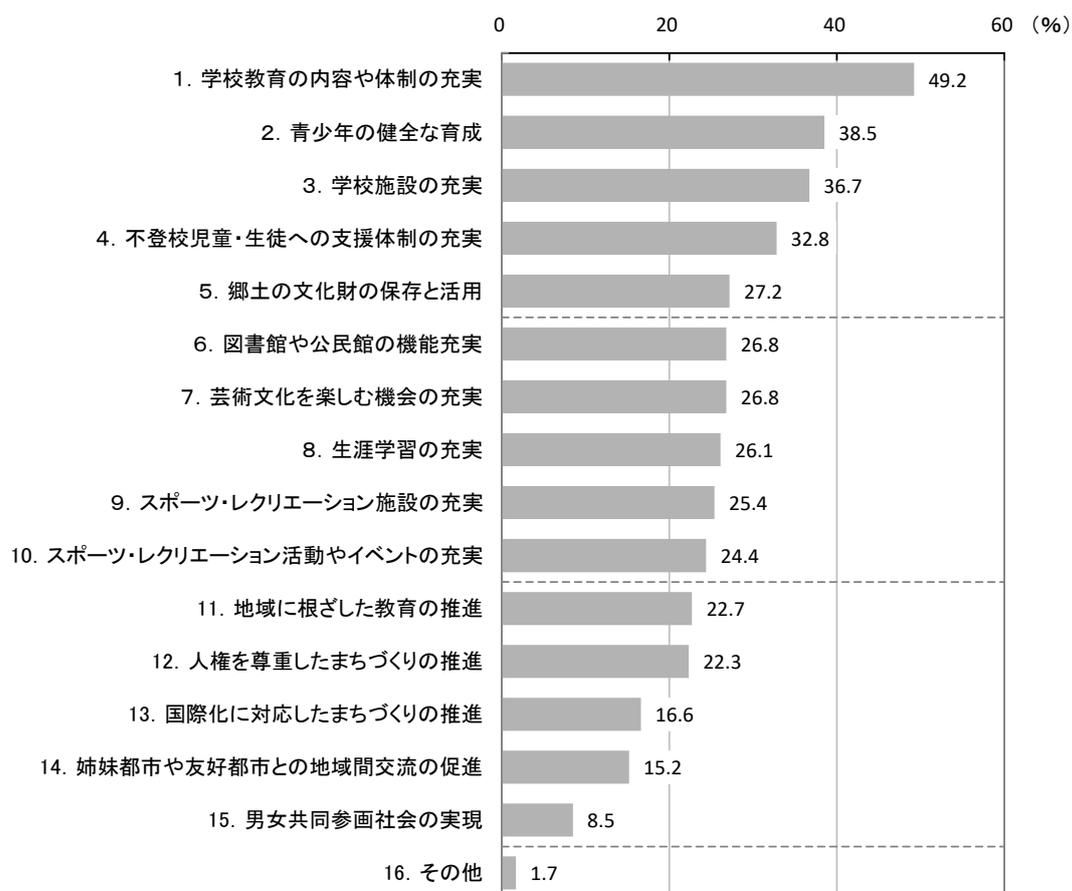
- 「結城駅周辺の商業地の活性化」が特に多く、結城市の顔となる中心市街地の活性化に対する関心の高さがうかがえます。
- また、「結城紬など伝統産業の保存、活用」も多くなっており、結城市の魅力や特色として、ユネスコ無形文化遺産に登録された結城紬等の伝統産業への市民の期待が高まっていると考えられます。





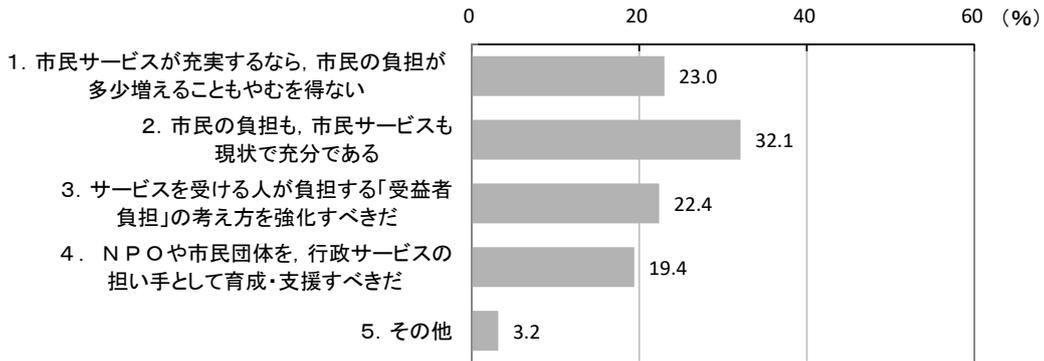
⑨ 教育・文化施策についての優先事項

○「学校教育の内容や体制の充実」が最も多く、「青少年の健全な育成」や「学校施設の充実」、「不登校児童・生徒への支援体制の充実」なども多くなっていることから、教育・文化施策の中でも、子どもに関する施策を充実させていくことが課題になると考えられます。



⑩ 行政サービスの水準と負担について

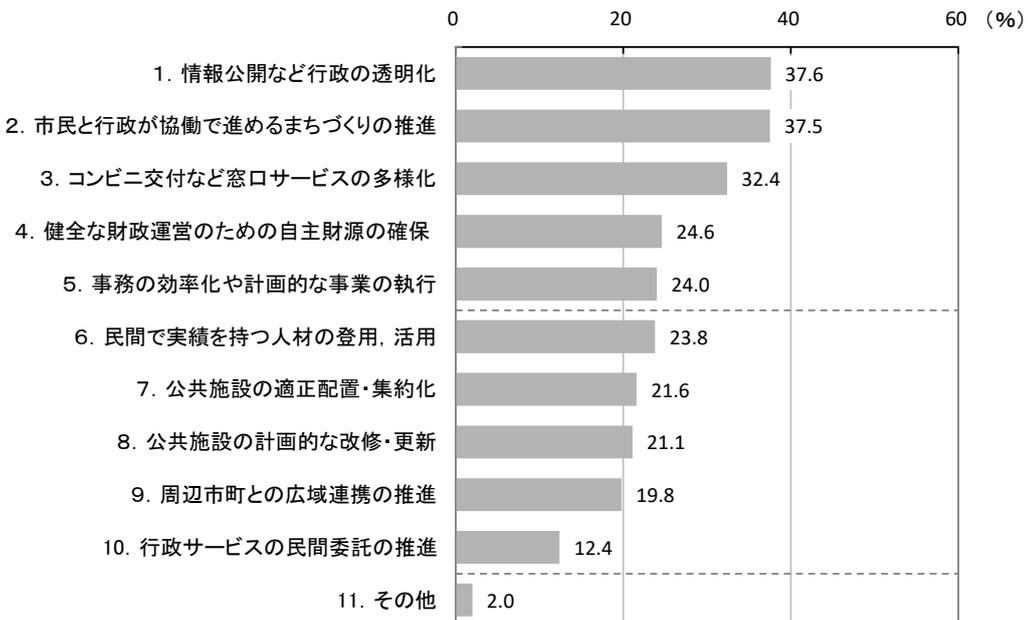
○「市民の負担も、市民サービスも現状で充分である」が最も多く、現状の行政サービスに一定の評価が得られていると考えられます。



⑪ 行財政運営に望むこと

○「情報公開など行政の透明化」と「市民と行政が協働で進めるまちづくりの推進」が共に多く、市民と行政の双方向の関係を強化させていくことが課題になると考えられます。

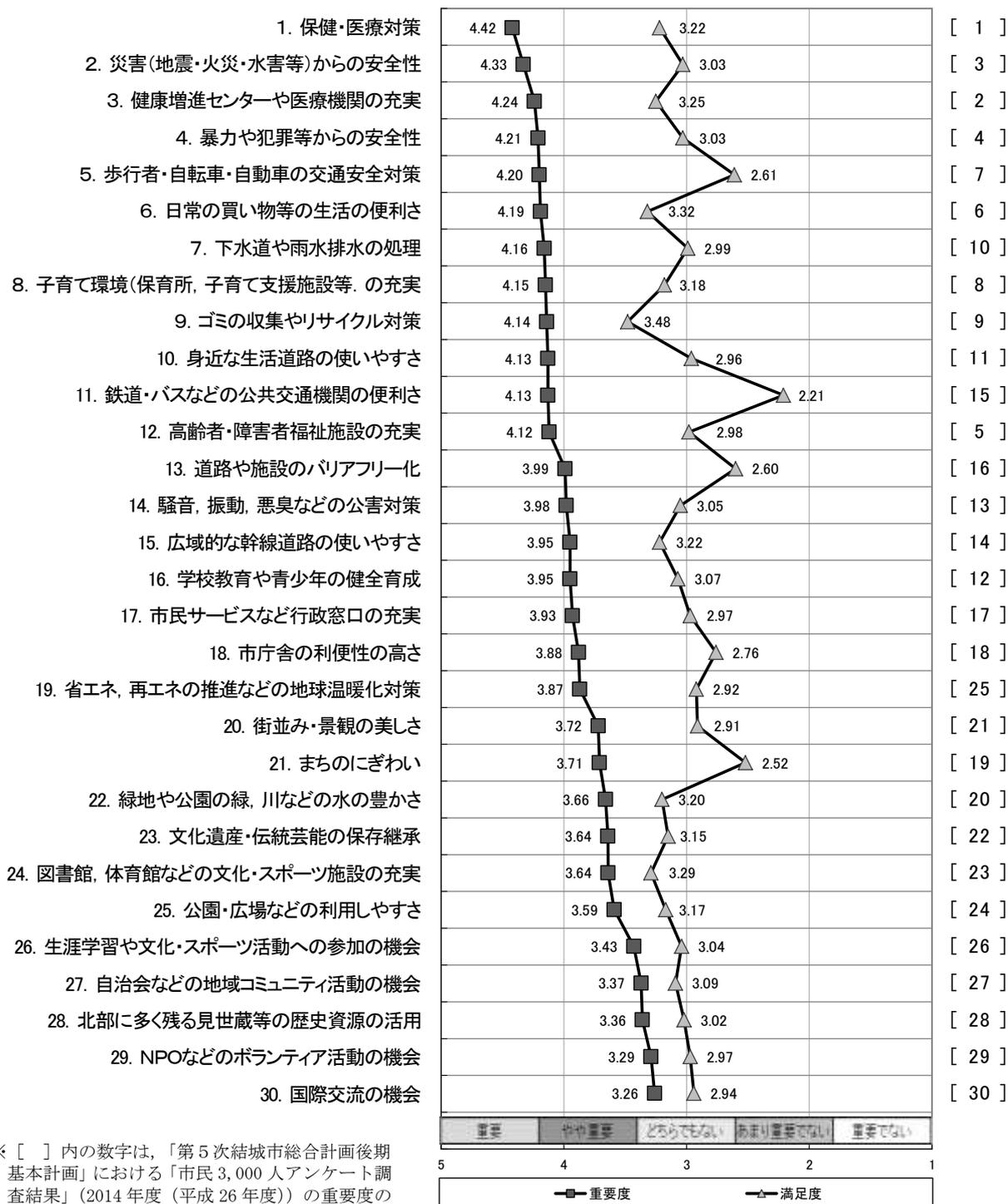
○また、「コンビニ交付など窓口サービスの多様化」も多くなっていることから、市民のニーズに合わせた窓口の多様化を図ることが求められています。





⑫ 結城市のまちづくりの満足度と重要度

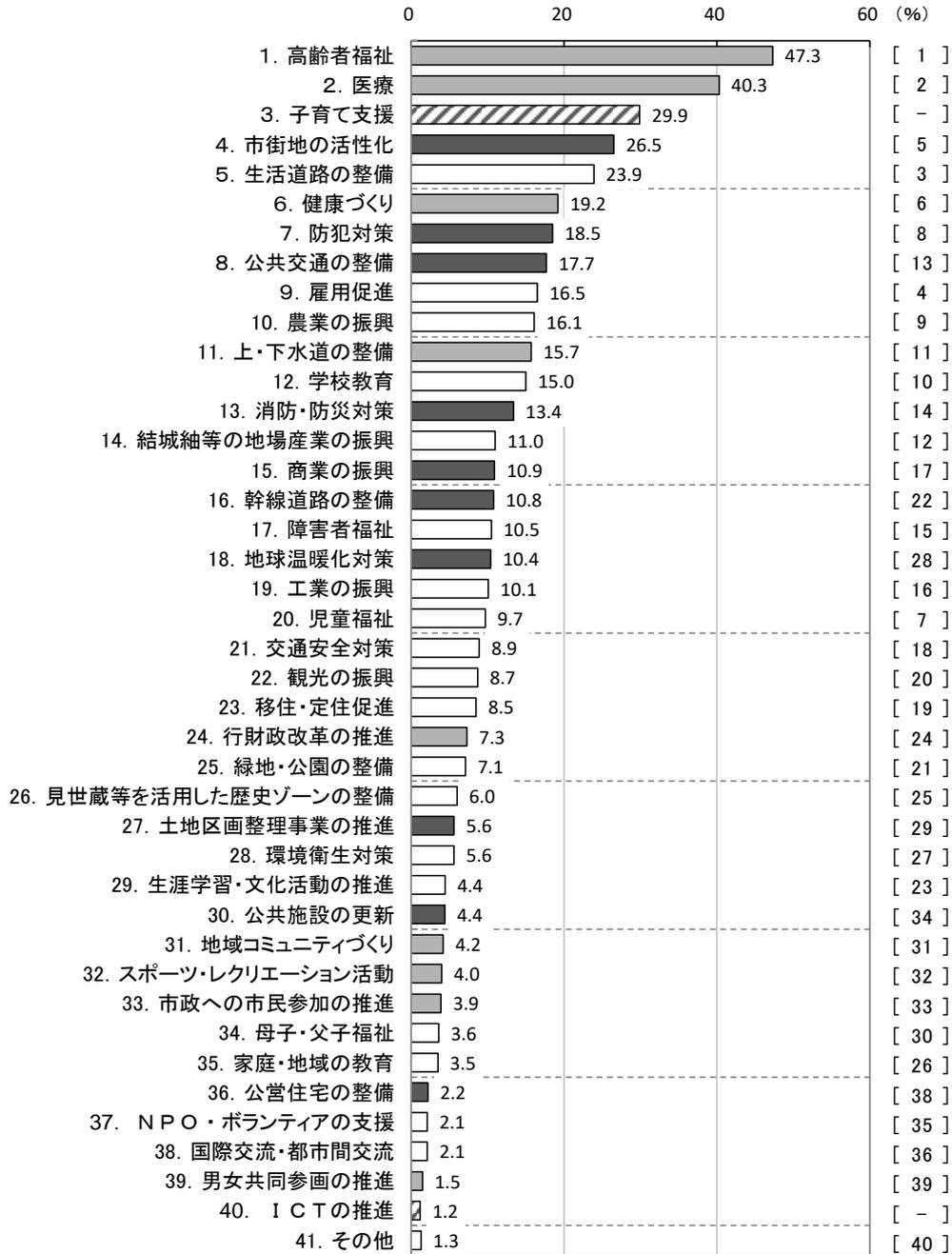
- 重要度では、「保健・医療・健康増進」や、「防災・防犯」、「交通安全」、「買い物・交通環境」、「子育て環境」などが高くなっています。また、前計画策定時の調査結果と比べて「交通安全対策」や「下水道や雨水排水の処理」は順位が上がっており、より重要性が高まっています。
- 「公共交通機関の便利さ」、「まちなぎわい」、「交通安全対策」、「バリアフリー化」などは、重要度が高いにもかかわらず満足度が低くなっており、特に課題になると考えられます。



⑬ 今後5年間に重点を置いたほうが良いと思う施策

○「高齢者福祉」や「医療」が前回と同様に特に多く、「子育て支援」や「市街地の活性化」、「生活道路の整備」も上位にあることから、今後も重要な課題になると考えられます。

○また、「防犯対策」、「公共交通の整備」などが前回よりも順位を上げており、市民の期待や関心が高まっていると考えられます。



※ [] 内の数字は、「第5次結城市総合計画後期基本計画」における「市民3,000人アンケート調査結果」(2014年度(平成26年度))の順位

■ 前回より上昇
□ 前回より下降
□ 変化無し
▨ 今回、新たに追加した項目



⑭ 調査結果のまとめ

【住みやすさ・定住意向】

- 結城市が**住みやすく、これからも住み続けたいと考える人が多い**ものの、若年層では、ずっと住み続けたいと考える人が少なくなっています。
- 住みやすい理由として「自分の土地や家があるから」、住み続けたい理由として「現在の仕事があるから」が多く、転居したい理由として、若年層では、「希望する仕事がないから」、「通勤・通学に不便だから」の回答が多くなっています。
- これらのことから、**若い世代の定住を促進するための雇用環境や通勤・通学の利便性の向上**が課題になると考えられます。

【結城市の長所・将来像】

- 結城市の良いところを「自然環境に恵まれていること」、「公害が少なく生活環境が優れていること」と考える人が多くなっていますが、『住みにくい』と感じている人では、「買い物などの生活利便性が高いこと」が特に評価が低くなっています。
- 結城市の将来像として、全世代で「子どもや高齢者が暮らしやすく安心できるまち」と考える人が多く、若年層では「商業・サービス施設が充実した便利なまち」と考える人が多くなっています。
- これらのことから、**子どもや高齢者が安心して暮らせるまちづくりや、若い世代のニーズに即した買い物利便性の向上**が課題になると考えられます。

【保健・福祉分野の優先事項】

- 保健・福祉では、「休日・救急医療体制の充実」の回答が多いものの、若年層では、「子育て支援体制の充実」、「保育所や保育サービスの充実」の回答が多く、高齢層では、「高齢者福祉の充実」、「介護支援サービスの充実」、「高齢者の生きがいづくりの充実」の回答が多くなっています。
- これらのことから、**若い世代に対する子育てに関する施策の充実や、高齢者に対する高齢者福祉・介護に関する施策の充実**などが課題になると考えられます。

【都市・環境の優先事項】

- 都市・環境では、「公共交通機関の充実」、「生活道路の改善」、「防犯対策の充実」の回答が多くなっています。
- これらのことから、**道路・交通網の利便性ととも、防犯等の安全性の確保**が課題になると考えられます。

【産業振興の優先事項】

- 産業振興では、「結城駅周辺の商業地の活性化」、「本場結城紬など伝統産業の保存、活用」の回答が全年代で多く、30歳代や『住みにくい』と感じる人では「大型店の立地や幹線道路沿道の商業振興」の回答が多くなっています。
- これらのことから、**結城駅周辺の商業地や伝統産業等の既存の地域資源と、大型店や幹線道路沿道の商業とのバランスの取れた活性化**が課題になると考えられます。

【教育・文化の優先事項】

- 教育・文化では、「学校教育の内容や体制の充実」、「青少年の健全な育成」、「学校施設の充実」の回答が多くなっています。特に、**若年層では、子育て世代が多く、学校教育や学校施設への関心が高い傾向**にあります。
- これらのことから、**学校教育や学校施設など、子どもの教育環境の充実**が課題になると考えられます。

【自治・行財政運営の優先事項】

- 市政情報の伝達状況では、若い世代や農村部を中心に「市政情報が伝わっていない」という回答が多くなっています。また、その伝達手段では、**若年層は「SNS」、高齢層は「広報紙」を活用する人が多い傾向**にあります。
- 『住みにくい』と感じている人は、「情報が伝わっていない」という回答が多くなっています。
- 行政サービスの水準と負担では、「市民の負担も、市民サービスも現状で充分である」という回答が多く、**現状の行政サービスの水準と負担に一定の評価を得ている**と考えられます。
- 今後の行財政運営に望むことでは、「情報公開など行政の透明化」、「市民と行政が協働で進めるまちづくりの推進」が多くなっていますが、若年層や『住みにくい』と感じる人では、「コンビニ交付など窓口サービスの多様化」の回答が多くなっています。
- これらのことから、**世代や地域特性を考慮した情報伝達や窓口サービスの充実**が課題になると考えられます。

【まちづくりの満足度と重要度・今後のまちづくり】

- 満足度の平均値では、「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」、「まちなぎわい」などが低くなっています。また、上山川地区、山川地区、江川地区では、全体と比べて満足度が低い傾向にあり、『住みにくい』と感じている人では、全体と比べて道路・交通や買い物の利便性の満足度が低くなっています。
- 重要度の平均値では、「保健・医療対策」、「災害からの安全性」、「健康増進センターや医療機関の充実」など、保健・医療・健康や災害に関するものが高くなっています。また、若年層では、全体と比べて「子育て環境の充実」が高く、『住みにくい』と感じる人は、『住みやすい』と比べて「文化遺産・伝統芸能の保存継承」も高くなっています。
- 今後のまちづくりでは、「高齢者福祉」、「医療」の回答が多く、若年層では、「子育て支援」、「学校教育」に関する回答も多くなっています。また、『住みにくい』と感じる人では、『住みやすい』と比べて「生活道路の整備」、「公共交通の整備」の回答も多くなっています。
- これらのことから、世代や地域特性に考慮しつつ、**道路・交通や買い物、高齢者福祉、保健・医療・健康、防災、子育て・学校教育、文化遺産・伝統芸能に関する施策の充実**などが重要になると考えられます。



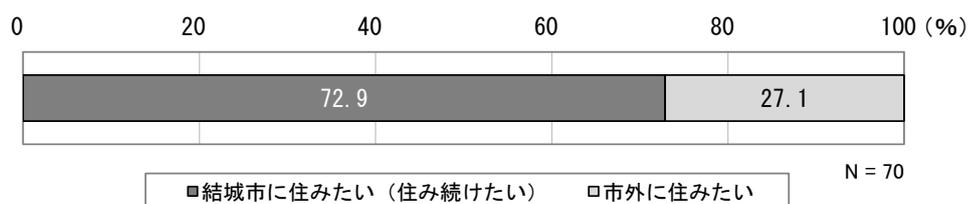
(2) ホームページによるアンケート調査結果

① 調査概要

- 調査期間： 2019年(令和元年)10月1日(火)～2020年(令和2年)1月16日(木)
- 調査方法： 結城市ホームページでの公開・受付
- 回収結果： 回収数70票

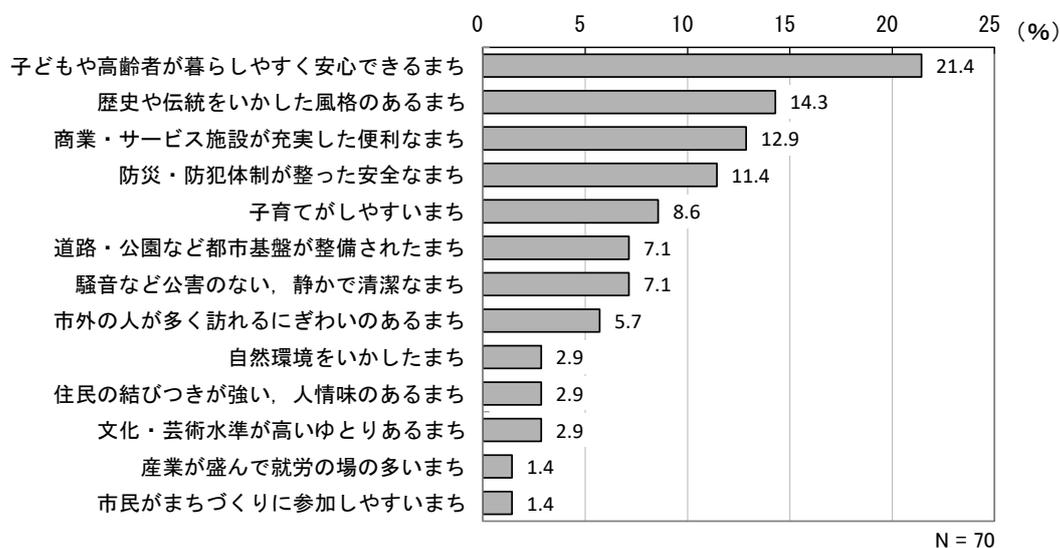
② 定住意向

- 結城市を「住みやすいまち」と考えている人が大半を占めています。
- また、「結城市に住みたい(住み続けたい)理由」は「住み慣れたから・生まれ育ったから・愛着があるから」、「交通利便性・周辺へのアクセス性が良いから」などが多く、「市外に住みたい理由」は、「魅力がないから・活気がないから」、「公共交通等の交通利便性が良くないから」が多くなっています。



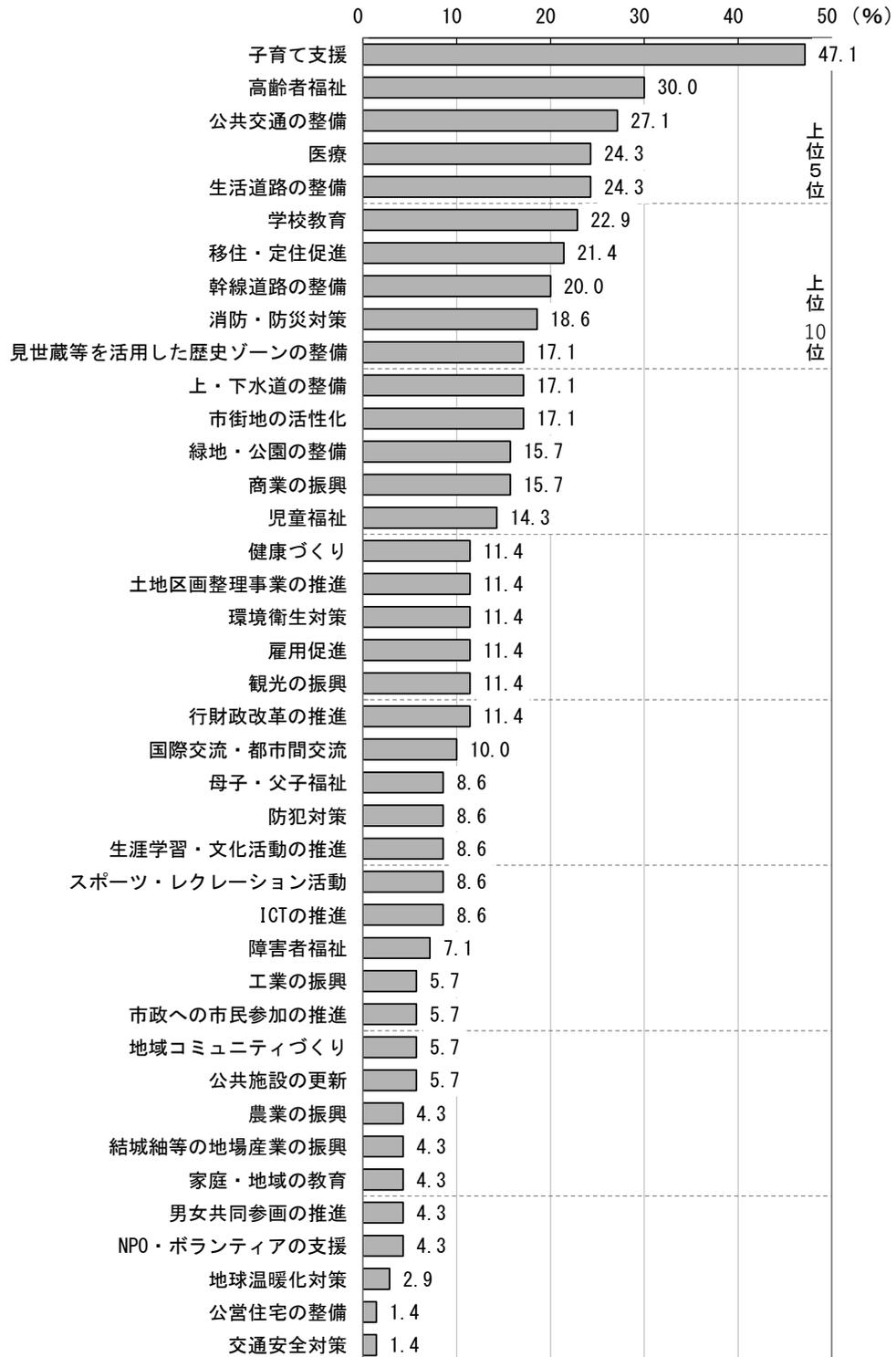
③ 結城市の将来像

- 「子どもや高齢者が暮らしやすく安心できるまち」と考える人が最も多くなっています。



④ 今後5年間の重点施策

○「子育て支援」が半数近くを占め、最も多くなっています。



N = 70



⑤ 調査結果のまとめ

【属性】

- ホームページによる調査は、若年層の割合が高くなっており、市民意向調査よりも若い世代の意向が反映されていると考えられます。

【定住意向】

- 定住意向は、これからも住み続けたいと考える人が多いものの、市民意向調査よりもずっと住み続けたいと考える人がやや少なくなっています。
- 住みたい（住み続けたい）理由として「住み慣れたから・生まれ育ったから・愛着があるから」や「交通利便性・周辺へのアクセス性が良いから」などの回答が多く、結城市に長く住んでいることと、日常生活における一定の交通利便性が確保されていることが背景にあると考えられます。
- 一方、市外に住みたい理由として、「魅力や活気がないから」、「公共交通等の交通利便性が良くないから」が多く、地域の活性化やにぎわいの創出、公共交通の充実などが課題になると考えられます。

【結城市の将来像】

- 結城市の将来像として、市民意向調査と同様に「子どもや高齢者が暮らしやすく安心できるまち」と考える人が多く、子どもや高齢者が安心して暮らせるまちづくりが課題になると考えられます。

【今後5年間での重点施策】

- 今後のまちづくりとして、「子育て支援」の回答が最も多いことから、若い世代のニーズに即した子育てに関する施策の充実などが重要になると考えられます。